

News Letter

第6号

2014, 11, 13

国際理解部

みなさん！こんにちは！

先週の国際理解講演会はいかがでしたか？

遠く福島からマリールイズさんにお越し頂き、貴重なお話をさせていただきました。
皆さんのアンケートを紹介します。

3年男：ルワンダ戦争は地理で学んだが、当時がどんな状況だったか知ることが出来て良かった。自分が将来やりたい仕事とリンクしていた話だったのでとても参考になった。



3年女：ルワンダ戦争は教科書の中の出来事の一つとしか捉えていなかったが、今回の話で「学ぶ」ことの大切さを改めて考え直すことが出来た。話の中の「一度聞いたことを、分からないままにしておかない」という話に、自分のことを言われているようだったのできちんと取り組みたいと考えさせられた。

3年女：学校で学べること、ご飯をいっぱい食べられること、家族と一緒に居られることは当たり前だとは思っていけないと、口では簡単にいえますが、そのことをこんなに痛感したのは初めてです。



2年男：いつもの日常が急に失われることが、とても怖かった。遠い国のことと済ませる事も出来るが、日本も集団的自衛権についてもめていて、いつ戦争に参戦するか分からないので、今日の話は為になった。

2年女：普段私たちは好きだから食べる、嫌いだから食べないなど自由なことをいえるのは「幸せ」だから。カビの生えたパンが2,000円の国もある中、日本は贅沢すぎると思った。

2年女：実際に戦争を経験した人の話を聞くことが初めてだったので衝撃的なことばかりでした。今、生きていること、生かされていることの意味を考えさせられました。

1年男：最初は「命・平和・教育」と言われても、私には直接関係ないと思っていたのですが講演を聞いて、生きている限り何か出来ることがあると知ることが出来て良かった。

1年男：今、何気なく面倒だと感じている勉強が、何となくありがたいと思えました。勉強できるって幸せなんだと感じました。

1年男：ルワンダ内戦について中学校の時に興味を持ち図書館やネットで調べてはいたが文章より、実際に体験をした話はリアル感があった。

将来国際問題に関わる職業を目指しているの、ためになった。

1年女：自分が生きていることに意味があるんだなと思いました。戦争が改めて残酷なものだと思い、世界中で早くなくなって欲しいと思いました。

「生きる」ということに誇りをもちたいです。



講演会の中での、印象に残った言葉シリーズ

- ・食べるか、死ぬか…
- ・生きていれば神様が守ってくれる
- ・教室には夢がつまっている
- ・神様は私たちに必ず大切なものを残してくれる。

今、3年生は進路に向かって闘っている真っ最中だと思います。1・2年生も部活動や日々の勉強、友人関係、または自分との葛藤など、それぞれ抱えているものがあるかもしれません。しかし、「悩める幸せ…」というものもあるのではないのでしょうか…。

一人でも多くの富高生が、自分らしく、そして笑顔で毎日過ごせますように♪